

「平成23年度森林・林業白書」の総括

1. 作成方針

トピックスでは、一般読者向けに平易に紹介する一方、白書本体では、現状・課題を分析的に記述。

特集章のテーマは「東日本大震災からの復旧・復興に向けて」として、東日本大震災による森林・林業・木材産業の被害状況・復旧状況を紹介した上で、海岸防災林の復旧・再生、新たなまちづくりに向けた木材の活用、エネルギー安定供給に向けた木質バイオマスの活用について記述。原子力災害からの復興についても記述。

また、事例・コラムの目次の追加、本文中における図表引用箇所の青色表示により、更に読みやすい白書となるよう工夫。

2. 総括

(1) 報道

「森林・林業白書」の公表に関する記事を掲載したものは、一般紙で2紙、地方紙で5紙、業界紙で7紙であった（別添1）。

(2) 広報・普及

広報・普及に当たっては、閣議決定本の配布、市販本の出版、大学等における説明会の開催、業界誌への概要記事の掲載、英語版の作成に取り組んだ。特に、説明会の開催については、大学等の新規開拓に積極的に取り組み、計35箇所で約1,500人（見込み）を対象に白書の説明を行った（別添2）。

(3) 主なコメント

説明会でのアンケート調査や個別に寄せられたコメントでは、平成23年度白書に対する評価は良好であった。

特に、特集章については、震災に関する情報を網羅的にとりまとめたことにより貴重な歴史的資料となっていること、編集面については、脚注の充実により資料的価値が高まったこと等に関して、高い評価を受けた（別添3）。
(以上)

「平成23年度森林・林業白書」に関する報道について

1. 全国紙：2紙

紙名	日付	記事の概要
日本経済新聞	4/27 (夕)	【林業白書「防災林に津波減災効果」】 ・政府は27日の閣議で2011年度森林・林業白書を決定。昨年の東日本大震災では、海岸防災林が津波の威力を軽減し、内陸部への到達時間を遅らせるなどの効果があったと指摘。機能を強化したうえで、被災した防災林の再生を進めるとの方針を示した。
共同通信 (web版)	4/27	【海岸防災林の機能強化 森林白書を閣議決定】 ・政府は27日、2011年度の森林・林業白書を閣議決定。東日本大震災で海岸防災林が津波の威力を軽減したとして多重防御の一つに位置付け、幅を広げるなど機能強化を図るとした。 ・東京電力福島第1原発事故の対応では、森林の放射性物質を除染する技術の開発が課題と説明。国有林を汚染土壌の仮置き場として自治体に無償で貸す方針も示した。 ・震災関連以外では、林業の作業道の整備を進めて生産性を向上させ、10年後には造林から伐採までの一連の林業経営を黒字化する目標を掲げた。

2. 地方紙：5紙

紙名	日付	記事の概要
東奥日報 福井新聞 山梨日日新聞 中国新聞 (すべてweb版)	4/27	【海岸防災林の機能強化 森林白書を閣議決定】 ・政府は27日、2011年度の森林・林業白書を閣議決定。東日本大震災で海岸防災林が津波の威力を軽減したとして多重防御の一つに位置付け、幅を広げるなど機能強化を図るとした。
静岡新聞	4/27	【海岸防災林の機能強化】 ・政府は27日、2011年度の森林・林業白書を閣議決定。東日本大震災で海岸防災林が津波の威力を軽減したとして多重防御の一つに位置付け、幅を広げるなど機能強化を図るとした。 ・東京電力福島第1原発事故の対応では、森林の放射性物質を除染する技術の開発が課題と説明。国有林を汚染土壌の仮置き場として自治体に無償で貸す方針も示した。 ・震災関連以外では、林業の作業道の整備を進めて生産性を向上させ、10年後には造林から伐採までの一連の林業経営を黒字化する目標を掲げた。

3. 業界紙等：7紙

紙名	日付	見出し
林政ニュース	5/16	<p>【23年度森林・林業白書は震災復興を特集 原子力災害、木質バイオエネルギーなど】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度森林・林業白書が閣議決定された。「東日本大震災からの復旧・復興に向けて」を特集。 ・23年度白書で目を引くのは、原子力災害に関する記述。前例のない放射能汚染によって、森林や木材が蒙った被害について、詳細なデータとともに解説している。 ・災害廃棄物などを利用した木質バイオマスのエネルギー利用も復旧・復興に向けた重点的な取組課題に位置付けた。
日刊木材新聞	5/2	<p>冒頭に森林・林業政策見直し記載 林業動向への関心高めること狙い 11年度林業白書を閣議決定</p>
北海道木材新聞	5/2	「平成23年度 森林・林業白書 4月27日・閣議決定され公表」
民有林新聞	5/10	「平成23年度 森林・林業白書」を公表
日本農業新聞	4/28	「11年度林業白書震災復興を特集」
財経新聞 (web版)	5/7	森林・林業白書でも原発災害からの復興課題明記
	5/8	木材輸出先 中国が最大の取引先に
日刊工業新聞 (web版)	5/1	「未利用間伐材の活用を」－林業白書

「平成23年度森林・林業白書」の広報・普及について

「平成23年度森林・林業白書」の広報・普及については、閣議決定本の配布、広く一般向けに周知することを目的とした市販本の出版、大学等における説明会の開催、業界紙への概要記事の掲載、英語版の作成等を行った。

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,800部印刷して、国会に提出(約1,000部)するとともに、関係省庁(約150部)、都道府県(約150部)、都道府県立図書館(約100部)、林業関係団体(約150部)、大学・短期大学(約40部)、農業高校(約70部)等に配布。

2. 市販本の出版

昨年までの2者が市販本を出版するとともに、日本合板工業組合連合会が建築関係者等に無償配布を実施。これにより、合計3者から計9,400部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会 : 5,000部
- ・ 特例財団法人農林統計協会 : 2,900部
- ・ 日本合板工業組合連合会 : 1,500部 (建築関係者等に無償配布)

3. 説明会等

農林水産白書合同説明会や大学・団体の主催する説明会において、合計35回、約1,500人(見込み)に対して、「森林・林業白書」の概要を直接説明。

(1) 農林水産白書合同説明会

農政局等毎の9ブロックにおいて、農林水3白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、森林・林業関係者等を中心に、計約500名(見込み)が参加。

(開催場所)

北海道農政事務所(7/2)、東北農政局(7/12)、関東農政局(6/28)、北陸農政局(7/12)、東海農政局(6/29)、近畿農政局(6/27)、中国四国農政局(7/6)、九州農政局(7/20)、沖縄総合事務所(7/4)

(2) 大学

全国20箇所の大学において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。森林科学科の学生を中心に、計約800名(見込み)が参加。今年度は、新潟大学、東京大学(新領域創成科学研究科)、国際基督教大学、岐阜県立森林文化アカデミー、追手門学院大学、鹿児島大学の計6箇所で新規に開催。

(開催大学)

北海道大学(7/2)、岩手大学(6/22)、新潟大学(7/3)、宇都宮大学(5/31)、筑波大学(5/24)、東京大学(6/12, 7/4)、東京農業大学(6/1)、国際基督教大学(6/26)、日本大学(5/16)、岐阜県立森林文化アカデミー(6/7)、京都大学(6/1)、追手門学院大学(6/1)、岡山大学(7/5)、島根大学(6/11)、高知大学(6/28)、愛媛大学(6/13)、九州大学(7/10)、鹿児島大学(7/20)、琉球大学(7/5)

(3) 団体

開催要望のあった6つの団体において、白書説明会を開催。計約170名(見込み)が参加。今年度は、日本政策金融公庫で新規に開催。

(開催団体)

- ・ 森林レクリエーション協会(5/14)
- ・ 森林技術総合研修所(養成研修専攻科)(5/18)
- ・ 日本林政ジャーナリストの会(5/25)
- ・ 林業機械化協会(6/4)
- ・ 日本政策金融公庫(6/26)
- ・ (独) 森林総合研究所林木育種センター(7/17)

4. 概要記事

業界紙9紙に、白書の概要記事を掲載(又は掲載予定)。今年度は、「機械化林業」で新規に記事を掲載。

- ・ 「森林と林業 5月号」(日本林業協会)
- ・ 「月刊RINYA 5月号」(林野庁広報室)
- ・ 「林業経済 5月号」(林業経済研究所)
- ・ 「森林技術 5月号」(日本森林技術協会)
- ・ 「山林 6月号」(大日本山林会)
- ・ 「農業と経済 7・8月合併号」(昭和堂)
- ・ 「森林レクリエーション 7月号」(森林レクリエーション協会)
- ・ 「機械化林業 5月号」(林業機械化協会)
- ・ 「住宅と木材 7月号」(日本住宅・木材技術センター)(予定)

5. 英語版の作成

自力での翻訳により、概要版の英語版を作成。1,000部印刷するとともに、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載。印刷物は、約30の海外林業関係機関や研究者等に送付。

(以上)

「森林・林業白書」説明会の実績

1. 農林水産白書合同説明会

日時	主催	場所	人数
7月2日	北海道農政事務所	札幌市	60
7月12日	東北農政局	仙台市	30
6月28日	関東農政局	さいたま市	30
6月29日	東海農政局	名古屋市	30
7月12日	北陸農政局	金沢市	50
6月27日	近畿農政局	京都市	140
7月6日	中国四国農政局	岡山市	40
7月20日	九州農政局	熊本市	50
7月4日	沖縄総合事務所	那覇市	40
計		9箇所	470

(注:平成21年度は9箇所、460名、平成22年度は8箇所、480名)

2. 大学

日時	主催	場所	人数
7月2日	北海道大学	札幌市	25
6月22日	岩手大学	盛岡市	60
7月3日	新潟大学	新潟市	30
5月31日	宇都宮大学	宇都宮市	50
5月24日	筑波大学	つくば市	20
7月4日	東京大学(森林科学専攻)	文京区	50
6月12日	東京大学(新領域創成科学研究科)	柏市	35
6月1日	東京農業大学	世田谷区	80
6月26日	国際基督教大学	三鷹市	15
5月16日	日本大学	藤沢市	120
6月7日	岐阜県立森林文化アカデミー	美濃市	20
6月1日	京都大学	京都市	50
6月1日	追手門学院大学	大阪市	30
7月5日	岡山大学	岡山市	25
6月11日	島根大学	松江市	50
6月28日	高知大学	高知市	20
6月13日	愛媛大学	松山市	40
7月10日	九州大学	福岡市	35
7月20日	鹿児島大学	鹿児島市	30
7月5日	琉球大学	那覇市	20
計		20箇所	805

(注:平成21年度は10箇所、435名、平成22年度は13箇所、535名)

3. 団体

日時	主催	場所	人数
5月14日	森林レクリエーション協会	文京区	30
5月18日	森林総合技術研修所(専攻科)	八王子市	10
5月25日	日本林政ジャーナリストの会	林野庁内	5
6月4日	林業機械化協会	文京区	40
6月26日	日本政策金融公庫	千代田区	30
7月17日	(独)森林総合研究所林木育種センター	日立市	50
計		6箇所	165

(注:平成21年度は4箇所、150名、平成22年度は7箇所、245名)

注:網掛け箇所は見込み人数。

「平成 23 年度森林・林業白書」に対する主なコメント

1. 説明会でのアンケート結果

(1) 編集方針について

- ・「森林・林業白書」は、とても目的意識が高く、利用者にフレンドリーな白書になっていると思った。
- ・「白書」と聞くと、分厚い本にびっしりと書かれた文字で読みにくい本というイメージを有していたが、高校の教科書のように、図やグラフなどでとても読みやすいものとなっていることに驚いた。
- ・東日本大震災という未曾有の大災害に対して、どのように対処したかを記録することは、10～20年後に必ず役に立つと思った。
- ・白書を読みやすく、しかも内容のあるものにする努力が行われていることが良く分かった。特に、脚注の充実は、白書の世界を格段に広げたと感じた。
- ・「森林・林業白書」には、多くの参考文献が記載されていることから、今後の調査・研究に活用していきたい。

(2) 内容について (第 I 章を中心に)

- ・震災による被害については、今まで人を中心とした被害しか見てこなかったが、森林・林業についても、木造仮設住宅や津波による被害など、多くの課題があることを知ることができた。
- ・林野庁による震災直後の対応が迅速かつ適切で、素晴らしいと思った。
- ・被災地の復旧・復興に当たり、森林・林業は、木材やエネルギーの供給により、重要な役割を果たしうることを改めて感じた。
- ・震災直後の対応で、不通となった県道の迂回路として、国有林林道を提供したという話が印象に残った。
- ・合板工場に供給されていた合板用材が行き場を失った時に、林野庁が流通コストを支援して、原木を非被災工場へ流通させたという話が印象に残った。
- ・仮設住宅の木造率が 1/4 程度で、思ったよりも高かったことが印象に残った。
- ・木造住宅に対しては、「耐火性・耐震性が低い」というイメージがあるが、必ずしもそうではないことを知ったので、将来は、木造住宅を建てて、少しでも国産材の需要拡大に貢献したいと思った。
- ・木質バイオマスに関して、発電のエネルギー変換効率が低いことを初めて知った。林業地域では、熱利用も含めた木質バイオマス発電を十分に期待できるのではないかと思った。
- ・東日本大震災が大きな被害をもたらしたことは確かだが、歴史的に見て、このような「破壊」は新たな技術の開発や雇用の創出などの経済的チャンスにつながっていくと思う。大震災を悲観するだけでなく、乗り越えるために様々な工夫をこらすことが、日本の未来を切り拓くのではないかと思った。

- ・ 良いところばかり書かれているが、悪いところもあるのではないかと思った。
- ・ 良いことが書いてありすぎて、現段階での問題を浮き彫りにしていない印象を受けた。
- ・ 被災地の林業を本当に復興できるのか、疑問に思った。
- ・ 現場の生の声が聞こえてくるような内容があれば、もっと良かったと思う。

2. 有識者等からの総合コメント

- ・ 今回の白書は、表やデータ、事例等資料が分かりやすく、これ一冊を読めば、今の林野行政の動き全てがかなり細部まで分かり、白書として非常に充実した内容になっている。第Ⅰ章は、大地震や津波、放射能のもたらした未曾有の災害に対して、林業や関連産業、バイオマスなど広範囲の視点から、状況や問題点、今後の方向性について、とられた対策や事実関係などを丹念に整理、分析してまとめた労作である。しかも、千年に一度の大震災対策で終わらせるのではなく、今の林業の抱えている様々な課題に敷衍させて、継続的に今まで以上に取り組む必要性に結びつけているのも良い。
- ・ 今回の白書では、第Ⅰ章で「東日本大震災からの復旧・復興に向けて」という観点から特集記事を編纂し、林業・木材産業、海岸林造成、除染、そして国有林の役割などについて、系統的に体系的にまとめたことは、大きなヒットであると思う。断片的な知識が整理され、何が問題であるのかが良く分かった。
- ・ 今回の白書の第Ⅰ章は、今後、何十万人、何百万人が読むものとなるであろう。出典が記されているので、現時点のみならず、将来的にも大きな価値がある。とても分かりやすい文章で、説得力もある。
- ・ 今年度の白書は、東日本大震災の被害状況と復興に向けた取組が取り上げられており、歴史的白書と言えると思う。他の章についても、今日の状況が過去の歴史の中でどのような位置にあるのか分析されており、内容の濃いものとなっている。資料的価値として、白書のエポックを画するものである。
- ・ 今回の特集章は、未曾有の、そして白書はじまって以来の大きな事件・事象を取り扱っており、全体を俯瞰する形でとりまとめ、大変分かりやすくまとめた本資料は、大変貴重な歴史的資料になっている。今後、同様の事態への対処方針を検討する際に、適当な分量でコンパクトにまとめ、更に詳しい情報に当たるための出典をきちっと付記した本資料は、大変役に立つであろうと感じた。
- ・ ふりがなが多く、注書きが豊富であるなどのため、全体として読みやすく見やすいと感じる。多様なテーマを総合的にまとめあげ、しかも、一つ一つのテーマが丁寧に記述されている。
- ・ 東日本大震災を取り扱った今年の白書ほど、海外向けに情報発信することが重要なものはない。特に、原発関連は重要である。
- ・ 原発事故の記述において、シーベルトやベクレルなどの単位について、分かりやすく解説をして頂けたら、更に良かった。

(以上)